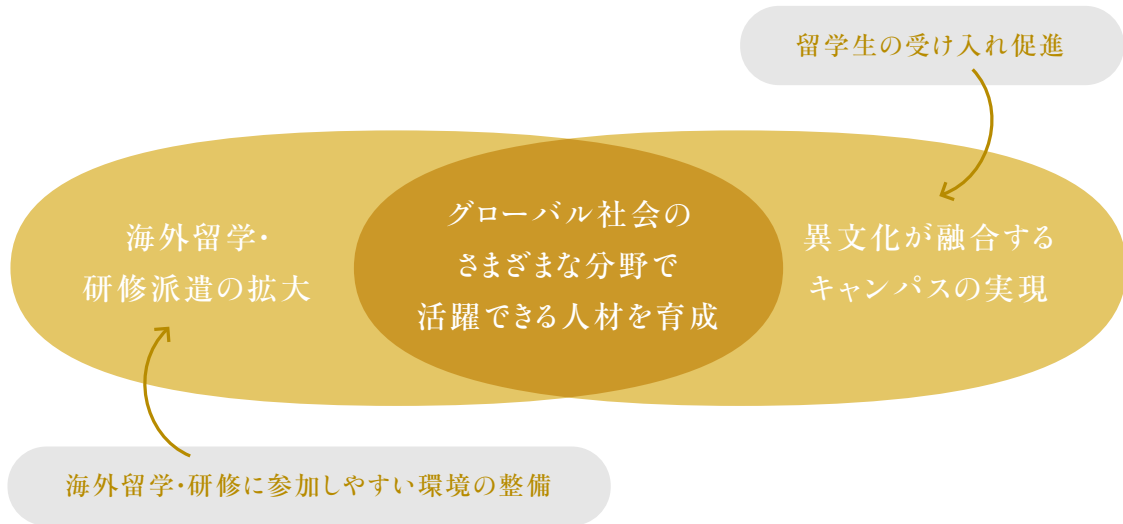


IV 国際化

「国際化」の基本方針

本学の国際化を推進するにあたっては、国際的素養をもってグローバル社会のさまざまな分野で活躍し、したたかに生き抜くことのできる人材を育成し、社会に輩出していくことを最優先課題とする。

そのためには、より多くの学生を海外留学・研修に派遣することにより、コミュニケーション能力や異文化理解力を涵養するとともに、海外からの留学生の受け入れを促進し、異文化が融合するグローバルなキャンパスを創っていくことが不可欠である。



推進事項1

海外留学・研修派遣の拡大による多様なグローバル人材の育成

本学では、従来から海外留学・研修の派遣拡大に積極的に取り組んでおり、大学全体で年間600名程度の学生を海外に送り出すまでになっている。しかしながら、学生総数からみれば、依然少数にとどまっており、特に交換留学、 Semester 留学の参加者は限定的である。

今後、グローバル社会のさまざまな分野で活躍できる多様な人材を社会に送り出していくためには、本学の海外留学・研修プログラムをより充実するとともに、学部を問わず海外留学・研修への積極的なチャレンジを促す仕組みを整備していく必要がある。

施策

- ① 各学部と国際センターが共同で学部ごとの留学モデルを策定するなど、学部独自のプログラムと国際センターのプログラムの有機的な連携を図り、多様なグローバル人材を育成する体制を強化
- ② 個別協定校の拡大や派遣国の多様化により交換留学を促進し、グローバル社会の最前線で高度かつ複雑な業務をこなせる人材の育成
- ③ 語学と専門科目の履修、インターンシップ、ボランティアなどを組み合わせた中期の留学や、アジアでの海外短期研修など、新たな海外留学・研修プログラムを開発
- ④ 国際センターが学部と連携して学部独自の海外研修プログラムのプラットフォームを提供するなど、特色ある海外研修プログラムの開発・実施のサポート

推進事項2

海外留学・研修に参加しやすい環境の整備

本学では、TOEFL学内テストの実施、交換留学生を対象とする奨学金制度の充実など、学生が海外留学にチャレンジしやすい環境の整備に努めてきた。しかしながら、留学に必要な英語力を修得することは依然として多くの学生にとって課題であり、海外留学・研修の参加費の高さや就職活動との兼ね合いも、参加をためらう一因となっている。

今後、学生の海外留学・研修への参加を促していくためには、これらの問題を取り除き、どの学部の学生であっても海外留学・研修に参加しやすい環境を整備する必要がある。

施策

- ①どの学部の学生でも留学に必要な英語力の修得が可能な英語教育体制の整備
- ②海外留学促進のための奨学金の充実
- ③国際センターとキャリアセンターなどの連携による海外留学派遣前、派遣後の就職活動支援の強化
- ④交換留学経験者の就業機会確保のため、大きな経済的負担を伴わず4年を超えて就学できる制度の検討

推進事項3

留学生の受け入れ促進と異文化が融合するキャンパスの実現

本学では、秋セメスターの交換留学受け入れ開始をはじめ、留学生の受け入れ拡大に全学的に取り組んできた。その結果、交換留学の受け入れは大幅に増加し、現在では30名前後の交換留学生が在籍するようになっている。しかしながら、学内での交流、留学の促進という点からみると、決して十分とはいえない。

今後、留学生の受け入れを促進し、異文化が融合するキャンパスを実現していくためには、留学先として本学が選択されるような受け入れ体制および学内での交流を促す仕組みを整備していく必要がある。

施策

- ①留学生と日本人学生がともに履修できる、英語による授業科目「国際交流科目群」(仮称)の新設(30科目程度)
- ②留学生のための日本語基礎科目の充実
- ③留学生向けの英語による授業科目および日本語科目を一元的に企画・運営する体制の整備
- ④留学生向けの授業料減免・奨学金制度を見直し、優秀な留学生受け入れを促進する新たな奨学金制度を構築
- ⑤留学生と日本人学生が寝食をともにする国際学生寮の新設
- ⑥留学生向けインターンシップの開発、就職活動支援の強化

「中京大学におけるグローバル人材」とは?

グローバル化が進む現代社会において、以下の能力・特性を備え、さまざまな分野・領域で、異なる言語、文化的・社会的背景を持った人たちと円滑にコミュニケーションをとりながら業務を遂行できる人材

- ①語学力を含めたコミュニケーション能力(異なる言語の壁を乗り越えて相手の意図を理解し、自分の意図をわかりやすく説明できる力)
- ②異文化理解力(異なる文化・慣習の壁を受け入れ、乗り越える力、具体的にはタフな精神力、積極性、柔軟性、自主性、使命感など)